

米づくり情報 (NO. 4)

令和2年7月6日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況 (アメダス観測地：伊万里)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
6月	4	22.4	22.3	26.8	26.2	19.0	19.6	67.9	38.5	19.6	24.6
	5	23.1	23.1	27.1	28.7	20.0	18.8	85.9	0.0	16.0	51.7
	6	24.0	24.3	27.7	30.1	21.1	20.5	95.6	1.5	14.1	27.7
7月	1	24.8	26.3	28.4	29.5	22.0	24.1	97.6	26.0	15.6	11.4
	2	25.5	-	29.2	-	22.6	-	84.3	-	19.2	-
	3	26.1	-	30.0	-	23.1	-	59.0	-	23.5	-

【6月4半旬～7月1半旬の気象概況】

- ・気温、日照時間ともに平年並みから1.5℃高く推移した。
- ・降水量は、平年よりかなり少なく平年の19%、日照時間は平年の177%となった。

2 生育状況 (7月6日)

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	主稈出葉数 (L)	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/2 移植 東山代町脇野	本年値	55.7	401	9.5	42.9	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年より低い ・莖数は、平年並 ・主稈出葉数は平年よりやや少ない ・葉色は平年よりやや淡い
	平年値	61.7	382	10.0	44.1	
	平年比	90	105	-0.5	-1.2	
ヒノヒカリ 6/20 移植 松浦町桃川	本年値	23.3	171	6.6	40.3	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年よりやや低い ・莖数は、平年よりかなり多い ・主稈出葉数は、平年並み ・葉色は平年よりやや濃い
	平年値	25.4	130	6.2	39.1	
	平年比	92	132	+0.4	+1.2	
たんぼの夢 6/15 移植 松浦町桃川	本年値	30.1	237	8.0	48.4	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年より高い ・莖数は、平年よりかなり多い ・主稈出葉数は、平年よりやや多い ・葉色は、平年より濃い
	平年値	25.6	143	6.6	41.0	
	平年比	117	166	+1.4	+7.4	

(耕種概要)

※夢しずくの耕種概要は稲作情報 No.1、ヒノヒカリ・たんぼの夢の耕種概要は稲作情報 No.3 を参照。

3 今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上旬移植）

- ・ 幼穂形成期を迎えている。幼穂形成始期（幼穂長 1 ミリ）を迎えた圃場では、下表を参照し穂肥を施用する。穂肥は、湛水状態で施用し最低 4 日間は止水し、落水しない。
- ・ 梅雨入りしたものの晴天が続いているため、落水を避け湛水状態を保つよう注意する。また、いもち病常発地帯では、発生状況をこまめに観察し、病斑が確認された場合は速やかに防除を実施する。

《夢しずく 穂肥診断基準》

幼穂形成始期の草丈(cm)	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量 (kg / 10a)	
	群 落	SPAD-502	出穂前日数	幼 穂 長	窒素成分量	BB602
	3.0以下	34以下	22~20日前	1 mm	3.0	18 kg
73cm以下	3.0~3.5	38以下	20~18日前	2 mm	3.0	18 kg
	3.5~3.8 3.8以上	38~39 40以上	15~14日前 晩限は止葉抽出終了まで	10~15mm	1.5~2.0 1.0以下	10~12kg 6 kg
73~79cm	3.0~3.5 3.5~3.8 3.8以上	34以下 38~39 40以上	20~18日前 15~14日前	2 mm 10~15mm	1.5~2.0 1.0	10~12kg 6 kg
80cm以上	原則として施用しない					

【穂肥診断の方法】

- ①幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ②葉色（群落・SPAD 値）を測る。
- ③上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
- ④施用量を確認したら、基準の施用時期に穂肥を施用できるよう。

2) 普通期水稻「夢しずく」

【6月上旬移植】

- ・ 有効茎（1 株当たり 20 本程度）が確保できた圃場から順次中干しに移行する。
- ・ ガス対策として移植後 15 日、25 日頃は夜干しなどを行い、根の活力を高める。ただし、用水確保が難しい地域では落水せずに湛水状態を保つようにする。
- ・ 中干しは約 1 週間、土壌表面に軽い亀裂が入り、足跡がわずかにつく程度とし、中干し後は間断灌水を行う。なお、強い中干しとなった圃場（手が入るほどの亀裂がある）では、一端通水し、根をならしてから間断灌水に移行する。



参考 夢しずく茎数

左 18 本 右 17 本

（間もなく中干へ移行）

左 29 本 右 23 本

（ただちに中干へ移行）

3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- 分けつ期を迎えている。除草剤処理後 1 週間経過した圃場は浅水管理に移行し、莖数確保に努める。
- 今後、大雨が予想される場合は、水尻を低くし長時間の冠水避ける。

※除草剤は、散布後 3 日経過すれば有効成分が土壤に吸着されるが、除草剤の処理層が破壊されないよう湛水状態（水尻を止水して湛水状態を保ち自然落水によって田面が見えても 1 週間は入水しない。）を保つようにする。ただし、均平が取れず田面が露出した部分がある場合は、1 週間後の雑草発生状態を確認し、早めに中後期剤等での防除を行う。



田面が露出し、ヒエが生えてきた圃場

4) 共通

○病害虫防除

(いもち病)

- 6 月 30 日までの BLASTAM 情報（気象条件のみによって葉いもちの発生を予測するシステム）によると、伊万里では 6 月 17 日と 18 日に葉いもちの感染好適条件が観測されている（好適条件が観測された 1 週間後に初発生や病斑数の急激な増加が予想される）。今後発生状況に注意し、進展型病斑が確認された圃場では、オリブライト粒剤等で速やかに防除を行う。
- 圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」の温床になるためすみやかに除去する。



いもち病進展型病斑

(ウンカ類)

- 佐賀県嬉野市では、5 月 11 日に 1 頭のトビイロウンカの飛来が確認されている。（6 月 30 日時点）
（※6 月 3 日に長崎県諫早市、佐世保市で、それぞれトビイロウンカ 1 頭、6 月 27 日に長崎県諫早市でトビイロウンカ 1 頭の誘殺が確認されている。平年より早い飛来により、圃場における増殖が確認された長崎県では 7 月 1 日に早期水稻でトビイロウンカの注意報が発報されている。）
- 防除時期については、今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量が異なるため、注意深く圃場を観察する。

令和3年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：伊万里）

西松浦農業改良普及センター

